

福島放技ニュース

現在と将来

副会長 鈴木 憲二

今年も一ヶ月を過ぎようとしている。今年こそはこんな事をやってみようという計画している会員も多くいると思う。今年こそと力を入れた割には年末になるといつも反省しているのは私ばかりであろうか。

1月の8日、9日の連休にアドバンスドセミナー看護学の講習会が開催され、今年度のアドバンスドセミナーの中で受講者が最も多かった。多くの会員が受講されたのは、職場の中で身近にいる看護師たちが学生時代に講義を受けた学問に関心があったからではと思われた。今回の看護学を私も受講し、患者さんの体位変換等の実習を行って見て補助するときのポイントは患者さんの内力を利用することで、押す・持ち上げる感じではなく、引く・転がすイメージでやると楽に出来ることが学習できた。

現在はアドバンスド放射線技師を取得しないと放射線機器管理士、放射線管理士、臨床実習指導教員の受講資格がなく、自由に講義を受けてそれらの資格を取得するのが本来の姿ではないだろうか。

福島県放射線技師会には多くの研修会、研究会がある。(これらの研究会は(社)福島県放射線技師会の学術分科会に所属している) おそらく全国的にもこのように多くの研修会、講演会を開催している県はなく、また多くの会員が参加されているのには頭が下がる思いである。しかしながら参加される会員がどの研修会や講演会を見ても同じ会員であることが多い。確かに勤務で出席できないこともあるだろうが、本県の会員がもっと積極的に参加され自己研鑽されることを希望する。

またアドバンスドセミナーの内、救急医療学が本県で開催していません。現在、福島県放射線技師会教育委員の中で検討をしていますが、受け入れてくれる施設と指導教員の問題もあり、今までのように同一会場での開催は難しそうで、各方部ごとの開催になりそうです。なるべく平成18年度の早めの時期にと考えているようですが、詳しくは、福島放技ニュースと福島県放射線技師会のホームページに掲載しますので、それまでしばらくお待ち下さい。

前々回のニュースで会長が述べたようにこれらの資格が技師格と連動して放射線技師の差別につながるような制度は、福島県放射線技師会としても望んでいることではない。また日本放射線技師会の現執行部に幻滅を覚え日本放射線技師会会員を退会した方も何名かいるが、もし現執行部に反対ならばこそ会員がまとまって我々の納得する指導者の下で運営していくように働きかけていかなければ、日本放射線技師会自体が良くなっていかない。

今年の6月に開催される日本放射線技師会総会は執行部役員の改選があり、福島県放射線技師会会員が指導者として将来を託することができる人に、是非当選して欲しいものである。

技師のための技師会へ一歩踏み出す

(社) 福島県放射線技師会会長
片倉 俊彦

明けましておめでとうございます。

例年にない寒い年明けとなった。また、昨年からの耐震強度偽装問題そして年明けのライブドア騒ぎから東横イン不正改造問題と想定外の問題が続出です。しかしながら、「問題の露呈の仕方が次第に政治家から離れていく」「焦点が暈ける」そして何よりも「個々の問題に費やされる時間が少なくなり追求が表面的になる」と感じられ、世間の知らないカードは山ほどあって、誰かが意図的に公開しているのではないかと勘ぐるのは私だけだろうか。このような世の中の縮図のような様相が日本放射線技師会にもある。一つは昨年の総会以来、厚生労働省に認可を求めていた定款の改正が認められず本年の総会にて再度審議されるという問題である。執行部はこの情報を隠し、第1回の会長会議でようやく「誰かが邪魔をした」といって自らの責任を否定しながら公開した。元々の定款決定手続きと定款内容に問題がなければ誰にも邪魔は出来ないことであり、瑕疵があったから認可されなかったと考える謙虚さが無いところが悲しい。

さらに、技師会と会長が名誉毀損で訴えられている問題や執行部批判を展開したホームページの会員を放射線技師会出版会が訴え裁判となっている問題など、本来会員を保護し会員のために活動すべき日本放射線技師会が会員イジメと責任逃れに奔走しているかのように見える。役員レベルのものがこのように感じているのであるから一般会員の皆様にもその様に感じている方々がいたとしてもおかしくはない。しかしながら、そのような役員批判は誤りであることに気が付いて欲しい。日本放射線技師会は私たち会員のものであり、執行役員も私たちが選出した役員である。本年は役員改選の年でもあり、定款改正のために全会員の委任状を必要とする総会となる。是非とも自らの手で技師会を自分たちのための会にするよう努力していただきたい。その努力の第一歩はどのような方向に進むべきかという前向きな意思表示である。民主主義の多数決の世界であるが故に少数意見として涙を呑む場面も多々あるとは思いますが第一歩がなければ何事も起こらない。年頭に当たり、皆様の絶大なる協力をお願いするものである。



福島県で開催しているアドバンスドセミナーは、3教科目の看護学の講習が開催された。1月の8日、9日の連休を利用し、福島県立医科大学看護学部の全面的な協力のもと、講義から実習まで変化に富んだ内容で好評であった。

今セミナー初めての2日続けての講習となり、浜通りや会津方部からの受講者は厳冬期で交通手段の不安もあり、泊まり込みでの参加も多かった。

看護師さんの仕事ぶりはいつも身近に見ていても、看護学として系統立てて講習を受けるのは、ほとんどが初めての経験であり、熱心に聞き入っていた。

両日とも実習の時間が組み込まれており、患者さんの車椅子やストレッチャーへの移動のテクニックや、安全な動かし方の基本を体験した。

日常の仕事で常に行っていることでも、あらためて教わると意外な発見が多く、人間工学に基づいた重心の位置や基底面積の概念は非常に参考になった、明日からの仕事ですぐに使える技術なので、大きな関心を集めていた。もう一つの実習は救急蘇生法であった、救急救命士が到着するまでの間、如何に命を繋ぐことが出来るか、人工呼吸と心臓マッサージを体験した。

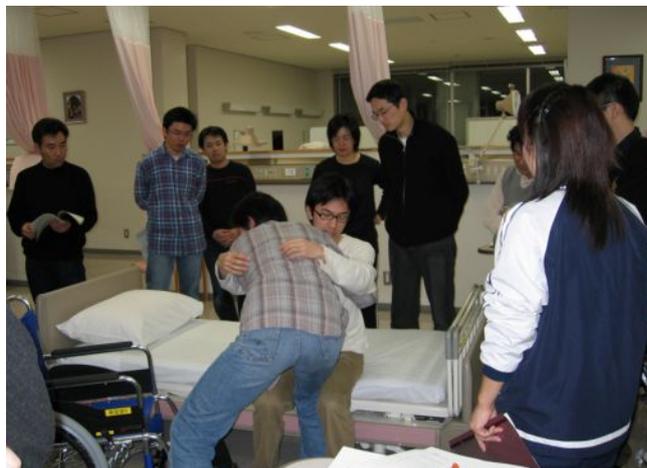
方部によっては何度か体験している参加者もあり、お手本のような妙技も見られたが、初めて体験する工呼吸に苦戦している会員が多く見られた。

医療職である以上、いざというときには率先して救命活動に参加するのは当然であり、是非とも習得しておく技術である。

我々の仕事は患者さんの外形や病態には気を遣って、画像情報の提供を行っているが、今回の講義を聴いて看護師さんたちは患者さんの心にまで入り込んで、身体と精神の両面からのケアを行っていくのが理解できた。

精神的な部分は放射線技師にとって不得意な分野であるが、これからは避けて通れないと思われる。

(八巻)



緊急のお知らせ!

〈ホームページのアドレスが変わります〉

社団法人福島県放射線技師会としてのドメイン取得に伴い、技師会のホームページのアドレスが変更となります。

<http://www.yo.rim.or.jp/~fart/> (旧アドレス)

↓

<http://fart.jp/> (新アドレス)

新アドレスは2月中旬頃の稼働を予定しております。旧アドレスについては、4月中旬頃からアクセスが出来なくなる予定です。

日放技永年勤続30年該当者の方々へ

① 日本放射線技師会会員には、放射線技師免許取得後30年以上の勤務歴があり、15年以上会員である方に永年勤続表彰が行われます。今年度も該当者と思われる方には受賞の意志を確認して手続しましたが、会員番号19622番までの方には旧教育会館出資金または寄付金の条件がついています。このため、推薦時に出資金・寄付金の確認をしています。もし、過去に推薦を辞退された会員でも受賞の意思のある方は申し出てください。

授賞式は学術大会時に行われますが、出席できない場合は、後日ご自宅に賞状額・会員バッジ・副賞が届くそうです。

② 日本放射線技師会永年勤続30年表彰受章者には、10万円の納付とその旨の申請により、翌年以降の会費を終身免除の特典があります。希望の方は年度内手続が必要ですので事務局に申し出てください。

同居会員の方へ

日放技会員で、同居会員のある方には雑誌購読料免除の規定がありますが、継続の方・新規の方は3月中の手続が必要です。

会誌1月号添付の申請用紙を用い県技師会に提出ください。遅れると次年度の適用できません。

会費未納の方へ

平成17年度会費未納の方は大至急納入ください。未納で年度を越えますと、支部助成金が減額になり所属支部の活動にも影響が出ますので御協力願います。

平成18年度北関東地域放射線学術大会 茨城大会

一般研究発表演題募集

演題申し込み受付期間

平成18年2月1日～3月31日

演題申し込み方法

茨城県放射線技師会のホームページ上でのみ受付

<http://www.sunshine.ne.jp/~iart/frame.htm>

発表形式

口述発表のみ

※機材はパソコンのみ使用可・スライドは不可

発表時間

1演題につき発表7分間 / 討論3分間

PCプレゼンテーション方法

PC(OSはWindows)は大会側で用意します。プレゼンテーション用のアプリケーションは、Microsoft社のPower Pointのみです。

演題に関する問い合わせ先

筑波メディカルセンター病院 飯村秀樹

〒305-0005 つくば市天久保1-3-1

Tel 029-851-3511 電子メール iimura@tmch.or.jp

その他大会全般に関する問い合わせ先

筑波シティア内科クリニック 高山 賢

〒305-0031 つくば市吾妻2-8-8

つくばシティアビル4F

Tel 029-856-5500

電子メール takayama@maill.accsnet.ne.jp

会 告

下記により、平成18年度第59回(社)福島県放射線技師会総会を開催します。

記

日 時：平成18年5月20日(土)

14時より～21日(日)11時まで

会 場：東山温泉 「東山グランドホテル」

(第1日目)

14:00 開 会

14:10 各分科会の報告

15:15 特別講演

演題「奥会津に生きる」

奥会津書房編集長 遠藤 由美子 氏

16:30 総 会

18:00 懇親会

20:30 各分科会の懇話会

支部だより

《県北支部》

県北支部新年交流会開催される

平成18年1月20日、福島テルサにおいて、毎年恒例の新年交流会が行われました。厳しい寒さの中でしたが6時30分より始まった会は、斎藤重夫支部長の挨拶のあと、片倉県会長からの祝辞と会の現状報告がされ、伊藤県事務局長の乾杯の音頭で開宴となりました。60名を超す参加者があり、日頃の仕事の話や趣味など様々な情報交換が盛んに行われていたようでした。後半には賛助会員の紹介と営業PRタイムとなり、それぞれ一気



飲みで大いに盛り上がりを見せました。今後も支部の活動を活発化するために、会員の皆様の積極的な参加を望みます。(池田)

《浜通り支部》

第14回福島県消化器研究会開催される

平成18年1月28日(土)14:00から2日間にわき市新舞子ハイツにおいて福島県消化器研究会・成人病従事者研修会が開かれました。この日の参加者は会場への出足が遅かったものの本講演の中盤頃には、ほぼ満席となりました。消化管撮影のスライドも多数準備され読影のポイントを大変判りやすく解説して戴く講義内容となりました。また、福島県の本研究会が日本消化器集団検診学会の中での胃がん検診専門技師制度もスタートし、これらの参加ポイントとして認められることなども紹介されました。今後、放射線科の様々な分野で専門化・認定化が進められるものと思われます。終盤には参加した放射



線技師の熱気の中、生涯学習の必要性を考えさせられる研究会となりました。(呉羽 大森)

《県南支部》

県南支部勉強会開催される

平成18年1月28日(土)に福島県放射線技師会県南支部勉強会が郡山市ビックアイで開催されました。一般研

究発表は7題で下記の通りでした。

- 1、GE社製ガンマカメラの使用経験
○坪井病院 濱端孝彦
- 2、ポータブル撮影時における散乱線について
○白河厚生総合病院 石森光一
- 3、マンモグラフィーの画質改善の試み
○白河厚生総合病院 小室敦司
- 4、肩関節MRIの画質改善の試み
○白河厚生総合病院 斉須貴明
- 5、MRI事故防止教育訓練
○白河厚生総合病院 川上典孝
- 6、放射線技師に必要な各種院内規定
○根本クリニック 菅野和之
- 7、当院におけるRI室の作業環境測定
○星総合病院 木村聡

一般研究発表後、吉田豊県南支部長から今年度の学術奨励賞が会員へ手渡されました。

第二部、教育講演として(財)脳神経疾患研究所付属総合南東北病院診療放射線科管理室長の飯野克郎先生の講演がありました。

『重粒子線ガン治療について』

重粒子線治療は治療効果が高い事が知られています。

(財)脳神経疾患研究所付属総合南東北病院では3年後ぐらいに重粒子線治療装置の導入が予定されていて、建設予定地、重粒子線治療装置室の見取り図などの説明があり、また照射装置の簡単な仕組みなどの話がありました。シンクロトロンは直径は10メートルぐらいの大きさで、重粒子線は2部屋に交互に分配して照射すると説明がありました。実際に飯野先生が視察された施設をスライドで説明していただき、参加された会員は講演時間を忘れ聞き入っていました。講演後の質問にも熱がこもり、実際の照射時間、医療費はどのぐらいになるかなど、他質問がありました。

技師会研究発表会の後に場所を移し、福島県技師会県南支部新年会が開かれました。



参加者は勉強会の余韻を引きずりながら、ビールで顔を赤らめ熱く語り合った事でしょう。(車田)

編集後記

暖冬と言われたこの冬ですが、厳冬となってしまいました。皆さま体は大丈夫でしょうか？私は、インフルエンザに倒れてしまい職場に迷惑を掛けてしまいました。これを書いている今日は大変暖かくこのまま春にならないかなあと思います。(北島)